

岡山県津山市 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ 2019 レポート

【 テーマ 】
津山で出会う新しい自分
～暮らし体験メニューを考える！～



実施目的

津山市に住んでいない外からの目線や、若者による意見・提案を、移住希望者や関係人口候補者向けの津山暮らし体験メニューに取り入れ、移住希望者の掘り起しや二拠点・多拠点居住といったライフスタイルの多様化へ対応していくことで、「住み続けたい・住んでみたい、誇りに思えるまち津山」の実現を目指していきます。

事業概要

オリエンテーションを通じて学生へ津山市の課題を伝え、これに対し学生が事前調査による課題への仮説設定、会場を津山市に移してのフィールドワーク（現地調査）を行う。これを基に学生が各チームでグループワークを重ねて「津山ぐらし体験メニュー」を作成し、最終報告会で提案するもの。

提案された内容は、津山市で事業内容を精査し、今後、都市部や津山で連続して開催を予定している「コトヒト未来事業」等へ反映を検討していく。

事業期間 2020年1月～2020年3月
(現地調査は2月10日～15日)
参加学生 8名（発表会はオンラインでの参加）

<発表会>

日 時 2020年3月11日（木）
場 所 津山市役所 本庁 第一委員会室

挨拶



谷口圭三 津山市長

近年、ライフスタイルが多様化する中、より多くの方に津山の良さを知っていただき、移住に繋げていくためには、津山市に住んでいない外からの目線、特に皆様のような若者による意見や提案が必要と感じ、今回の取組を実施することとなりました。

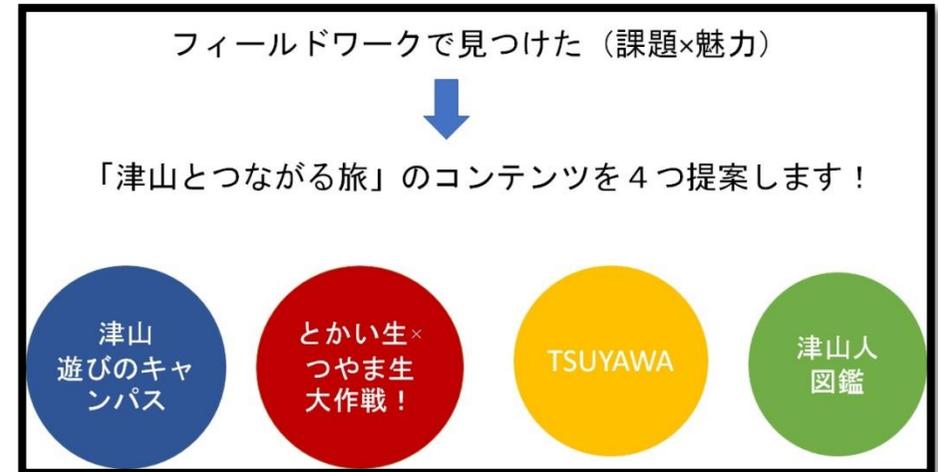
ご提案いただいた内容は、今後の移住施策の参考とし、実際に実施していく予定としております。若者ならではの魅力あふれる企画を期待しております。

岡山県津山市 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ 2019 レポート

チーム diver city

津山の魅力

人	場所
<ul style="list-style-type: none"> • 熱い • 夢にまっすぐ • 老若男女問わず地元愛 • 優しい 	<ul style="list-style-type: none"> • 程よく都会、程よく田舎 • 四季 • 歴史 • 食文化 • 地域コミュニティー



津山の課題

人口	<ul style="list-style-type: none"> • 人口減少、高齢化、18歳の崖 (進学、就職) • 移住フロンティア縮小⇒仕事づくり・関係人口創出が必要
プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> • 観光コンテンツが弱い (遊ぶ場所がない) • PR (顔が見えない、津山の知名度低い)
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> • 地域間に距離がある、中心市街地 (シャッター街) • 孤立してしまう移住者も
交通	<ul style="list-style-type: none"> • 車社会 ⇒高齢者不自由、周遊観光 (滞在) が難しい

つやま遊びのキャンパス:	遊びの場を創造する場
とかい生とつやま生:	ひとつ屋根の下で過ごす、学生の・学生による・学生のためのホームステイ型体験ツアー
TSUYAWA:	既存と新規の輪の連携事業
つやま人図鑑:	津山人とつながることのできる仕組み

これらのコンテンツを通じて

- ✓ 津山を知る
- ✓ 津山を訪れる
- ✓ 津山に友人ができる
- ✓ 津山のファンになる

還流促進
関係人口の創出・拡大

関係人口とは町と人、人と人の結びつき

岡山県津山市 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ 2019 レポート

チームびんちゅう

【ゴール設定】

定期的に津山を訪れ、津山により影響を与える(新しい風を吹かせる)存在を作り、ファミリーならではの、新しい関係人口モデルを築き、津山と濃厚な関係を持ち続けてもらう！

目指すのは…

**「住んでないけど、
私たち家族はつやま育ちです。」**

【ターゲット】

関係人口創出の取組みの背景

「多くの若者に従来の都市志向から地方志向が広がっており、
…人の役に立ちたいというソーシャルな価値を
重視するトレンドが生まれている」

総務省「これからの移住・交流施策のあり方に関する検討会報告書」より

**「ファミリー」が
ターゲットの新しい
関係人口創出のモデルを！**

【暮らし体験メニューのコンセプト】

「住んでないけど、私たち家族はつやま育ちです。」

- ・親と子が一緒になって遊んだり、何かに取り組める
- ・そんな親子の豊かな時間に、津山が寄り添う
- ・成功体験は津山から



2つのプログラムを通して家族と津山を繋ぐ

学習雑誌の発行

絵本やおもちゃ、食材が届く「実家からの仕送り」

つやまクラブの創設

学習雑誌の季節の題材をより深く体験できるプレーパーク



**「学習雑誌」と「つやまクラブ」を通して
家族にとっての重要な瞬間が生まれていく。
津山が寄り添う、もうひとつの日常。
津山とファミリーの新しい関係。**



岡山県津山市 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ 2019 レポート

講評



谷口圭三 津山市長

素晴らしい提案をありがとうございました。
提案いただいた内容について、実際に行ってみたいと感じさせられるものもございました。
今後政策として展開できるのかについて、しっかりと議論していきたいと思えます。
今後も今回の縁を継続して持たせていただきたくお願い申し上げます。



有本 明彦 津山市教育長

今日は大変ありがとうございました。
フィールドワークの際に津山の子供達をどのように育てていきたいか、話もさせていただきました。そういった点で、今日いただいた話は大変参考になりました。
今後皆様方には、本市の中学生とディスカッションさせていただく機会を設けさせていただければ、大変ありがたいと思っております。

**早稲田大学
天野 紀明 教務部事務部長**

学生はフィールドワークや本日の報告会など、今できる最大限の事をやっていただいたと感じております。
提案した内容はまだまだ実現出来る段階ではありませんが、学生ならではの視点でターゲットを絞り考え出したものです。
学生は今回のプログラムは終了しますが、引き続き津山市にお世話になることもあるかもしれません。今後どうぞよろしく申し上げます。



岡山県津山市 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ 2019 レポート

学生感想

チーム A

・今回の二カ月間の学びは、大学4年間で大きな集大成とさせていただくことが出来ました。

・テーマにあるように津山で出会う新しい自分を見つけられた様な気がします。

・津山でのフィールドワークを通じて人の温かさに触れることが出来ました、人の良さに触れ、自分自身の良い経験となりました。

・本日はこのような場を設けていただき大変感謝しています。また職員の皆さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。



チーム B

・津山は地域によって気候の変化が大きく、自然の豊かさが違うと思いました。自分の知っている津山は一部だと思いますので、今度しっかりと訪れてみたいと思います。

・自分の成長に大変繋がりました。季節を変えてまた訪れたいと思います。

・短い時間でしたが、津山市をよくするために頑張っている人の努力を感じ、今後の自分の活動にも活かしていきたいと思いました。

・フィールドワークから帰ってから、ほぼ毎日チームで集まって話し合い、今日を迎えました。せっかくここまで考えてきましたので、今後何らかの形で関わることが出来たらと思っています。



岡山県津山市 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ 2019 レポート

事業振り返り



Q 今回参加した中で、この体験は周りの人も伝えたい、この人には会ってほしいというものがありますか？

- A
- ・ こけないからだ体操で出会えた方の話です。津山で暮らす一般の方の話聞いて欲しいと思います。
 - ・ 津山の高校生です。津山の高校生から地元愛を感じました。地元の良いところも悪いところもきちんと把握していると思いました。自発的に地域の活動に取り組んでいるところに刺激を受けました。
 - ・ 体験としては作州餅です。すごく楽しくて、洋服が好きな女の子は、はまってしまうと思います。
 - ・ 阿波の方々です。私は津山にあるものないものという目線でフィールドワークに取り組んでいましたが、人や事に注目して活動されている話を伺い、刺激を受けました。
 - ・ 津山で体験してほしい事は、美味しい肉料理を食べてほしいという事です。
 - ・ 桜太鼓の皆さんです。参加している子供同士で、先輩が後輩に桜太鼓を教えている姿を見て、繋がっていくという事を肌で体感しました。また夜空の星々が綺麗だったのが印象に残っています。
 - ・ 普通の人や普通の場所に会い、行ってみたいと思います。

Q テーマにあるような新しい自分は見つかりましたか？

- A
- ・ チームをまとめる経験をしたことがなく、今回リーダーとして取組んだことで、自分の新しい一面を見つけることが出来たと思います。
 - ・ 本来受動的な性格でしたが、今回能動的に行動が出来たことが良かったと思います。また、津山の事を知れた事も良かったと思います。
 - ・ チームの中で自分の立ち位置を考え、どのように行動することが必要かを考え、それを実行出来たのが良かったと思います。
 - ・ 今回の経験を通じて、自分一人で考えるだけでは見つからないことが、誰かと接することで見つかることがあることを知れました。

講評

玉置 晃隆 産業経済部長

今日までの2カ月間ありがとうございました。

両チームとも人に注目した提案をいただき非常に嬉しく思っています。チームびんちゅうのファミリーという、関係人口候補者として着眼しきれていなかったターゲットをテーマにした提案、チームダイバーシティの津山人図鑑という津山には素晴らしい人が沢山いるんだという提案。ともにありがたい提案でした。

この様な提案を、津山の地方創生へ取り入れていきたいと思えます。また、今一番大切なのは、津山に住んでいる人が津山の事を誇りに思えることだと思っています。今回の取り組みを市民の皆さんが知ることによって、津山の良さを再認識してもらえるように取り組みます。



岡山県津山市 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ 2019 レポート

報告会の様子

